令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人ニッセイ文化振興財団
施設名	日生劇場
内定額	25,148　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 物語付きクラシックコンサート「アラジンと魔法の歌」	2025年7月26日(土)、27日(日) 各日2公演	日生劇場
公-02	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 舞台版「せかいいちのねこ」	2025年8月2日(土)、3日(日)　各日2公演	日生劇場
公-03	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 バレエ「コッペリア」―日生劇場版―	2025年8月15日(金)、16日(土)、17日(日)　各日2公演	日生劇場
公-04	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 NHKみんなのうたミュージカル「リトル・ゾンビガール」 ～ノノとショウと秘密の森～	2025年8月23日(土)、24日(日)　各日2公演	日生劇場
普-01	ニッセイ名作シリーズ 2025 舞台版「せかいいちのねこ」	①2025年9月1日(月)～5日(金) ②2026年1月28日(金) ③2026年2月4日(水) ④2026年2月13日(金)	①札幌市教育文化会館 大ホール ②愛知県芸術劇場 大ホール ③福岡市民ホール 大ホール ④那覇芸術文化劇場なはーと 大劇場
普-02	日生劇場　子どもたちのためのダンスワークショップ 2025	①2025年6月11日(水) ②2025年6月2日(月)、3日(火) ③2025年9月24日(水) ④2025年4月23日(水)、24日(木) ⑤2026年2月11日(火)	①北上市立黒沢尻西小学校 ②大阪市立味原小学校、大阪市立大江小学校 ③長野市立鍋屋田小学校 ④札幌市立みどり小学校、札幌市立北野平小学校、札幌市立栄東小学校 ⑤那覇文化芸術劇場なはーと 大スタジオ
普-03	日生劇場 〈オペラを知る〉シリーズ 2025	①2025年6月28日(土) ②2025年9月13日(土)	①日生劇場(ピロティ) ②日本生命日比谷ビル(日生劇場)7階大会議室
普-04	第32回　日生劇場舞台フォーラム2025	2025年11月12日(水)	日生劇場

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	21	14	14
	公演事業	13	9	9
	（内、本助成対象事業本数）	3	0	4
	人材養成事業	1	0	0
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	普及啓発事業	6	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	6	0	4
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　顕彰事業	1	1	1

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	159	165	173
	ホール名：日生劇場　　座席数：1334	159	165	173
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	70,878	58,249	54,888
	公演事業	69,905	57,644	54,202
	人材養成事業	0	0	0
	普及啓発事業	854	482	564
	共生社会事業			
	その他　内容：　顕彰事業	119	123	122
	貸館事業入場者・参加者数	242,129	256,007	238,574
	その他　内容：　共催事業	3,172	2,273	3,601
	計	316,179	316,529	297,063
開館日数		213	211	196
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））		213	211	196
施設の利用日数		213	211	196
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）		100.0%	100.0%	100.0%

備考	
	貸館事業は主催公演を実施しない月に月単位で公演を行う主催者に対して行っており、全ての月に利用がある。上記開館日数は公演を行う日（来場者がある日）を計上しており、貸出期間のうち仕込・稽古等の公演準備を行う日と休演日は除外した。公演準備を行う日と休演日に、保守点検日及び休館日（12/31及び1/1）を365日から除外すると、利用率は100%となる。

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	13	96	105,153	8	4	1				
	共催・提携公演（※2）	1	4	3,172		1					
	貸館公演	8	201	242,129	8						
	計	22	301	350,454							
令和6年度	主催公演（※1）	9	78	76,212	4	4	1				
	共催・提携公演（※2）	1	3	2,273		1					
	貸館公演	7	218	256,007	7						
	計	17	299	334,492							
令和7年度	主催公演（※1）	9	91	84,924	5	3	1				
	共催・提携公演（※2）	1	4	3,601		1					
	貸館公演	7	222	238,574	7						
	計	17	317	327,099							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の 設定席数（実績値） 合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 物語付きクラシックコンサート「アラジンと魔法の歌」	目標値	3,980	80.0%	子どもの公演満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）が80%以上	93.7%
		実績値	2,809	56.5%	大人の公演満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）が80%以上	92.4%
					子どもの舞台芸術への関心度	アンケートにおいて「今後も舞台芸術を鑑賞したい／（子どもに）鑑賞させたい」の回答が80%以上	97.2%
					子ども券の割合	チケット販売数に占める子ども券の割合が45%以上	44.7%
公-02	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 舞台版「せかいいちのねこ」	目標値	3,920	80.0%	子どもの公演満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）が80%以上	92.7%
		実績値	4,713	96.2%	大人の公演満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）が80%以上	95.7%
					子どもの舞台芸術への関心度	アンケートにおいて「今後も舞台芸術を鑑賞したい／（子どもに）鑑賞させたい」の回答が80%以上	98.0%
					子ども券の割合	チケット販売数に占める子ども券の割合が40%以上	37.1%
公-03	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 バレエ「コッペリア」―日生劇場版―	目標値	5,510	80.0%	子どもの公演満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）が80%以上	93.7%
		実績値	5,373	78.0%	大人の公演満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）が80%以上	97.5%
					子どもの舞台芸術への関心度	アンケートにおいて「今後も舞台芸術を鑑賞したい／（子どもに）鑑賞させたい」の回答が80%以上	98.8%
					子ども券の割合	チケット販売数に占める子ども券の割合が45%以上	40.8%
公-04	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 NHKみんなのうたミュージカル「リトル・ゾンビガール」 ～ノノとショウと秘密の森～	目標値	3,920	80.0%	子どもの公演満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）が80%以上	96.7%
		実績値	3,724	76.0%	大人の公演満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）が80%以上	96.6%
					子どもの舞台芸術への関心度	アンケートにおいて「今後も舞台芸術を鑑賞したい／（子どもに）鑑賞させたい」の回答が80%以上	98.8%
					子ども券の割合	チケット販売数に占める子ども券の割合が40%以上	39.0%

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人ニッセイ文化振興財団
施設名	日生劇場
内定額	25,148　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 物語付きクラシックコンサート「アラジンと魔法の歌」	本公演は 2021 年に上演、84%の入場者率を得た作品の再演であることから目標値を 80%に設定したが、結果は 23.5 ポイント下回る 56.5%となった。来場者の満足度等は目標を超過達成していることから、作品の内容については十分に評価を得たと考えているが、入場者率の大幅な未達を鑑み、想定した成果を得られなかったと判断した。 「物語付きクラシックコンサート」は、低年齢の子どもにもクラシック音楽を楽しく鑑賞してもらえるよう、オペラ歌手やミュージカル俳優を起用し、お芝居仕立てで演奏を行う当劇場のオリジナルフォーマットで、毎年 80%から 100%近い入場者率を得るなど、広く支持されてきた演目ではあるが、R6 年以降は類似公演が増加傾向にあることから入場者率が低迷している。今後の継続にあたっては作品の訴求点を分かりやすく伝えるなどの広報上の工夫に加え、営業販路等の見直しが必要と考えている。
公-02	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 舞台版「せかいいちのねこ」	2023 年の初演に続いてチケットは完売となり、入場者率も目標を大幅に超過する 96.2%となった。人気絵本「せかいいちのねこ」初の舞台化でもある本作は、我が国を代表するコンテンポラリーダンスカンパニー「Co.山田うん」主宰の山田うんが振付だけでなく、脚本・作詞・演出も手掛けており、演劇・舞踊ファン、原作ファンからも注目を集めており、来場者満足度も目標を超過達成となったほか、舞踊評論家等からも SNS において評価・称賛のコメントを得ている。 チケット販売率に占める子ども券割合が目標を 2.9 ポイント下回ったが、販売が好調だったことから実売数では目標を超過しており、それらも踏まえ、想定以上の成果を得たものと評定した。
公-03	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 バレエ「コッペリア」―日生劇場版―	実際の入場者率は目標を 2 ポイント下回る 78%となったが、販売枚数ベースでは目標を達成しており、ファミリー向け公演におけるバレエ演目の人気を裏付ける結果となった。 日生劇場ファミリーフェスティヴァルでは、バレエ鑑賞経験の少ない（初めての）子どもやその保護者の鑑賞理解を深めるため、ストーリーやマイム等の解説を入れるなどの工夫をしているほか、ファミリー向けバレエ公演では珍しい、フルサイズのオーケストラによる生演奏での上演を続けている。来場者アンケートでもそれらの取り組みを評価するコメントが多く、満足度等の目標も超過達成となったことも踏まえ、概ね想定通りの成果を上げたと評価している。
公-04	日生劇場ファミリーフェスティヴァル 2025 NHK みんなのうたミュージカル「リトル・ゾンビガール」　～ノノとショウと秘密の森～	入場者率は目標を 4 ポイント下回る 76%となったが、2022 年の初演に比べると上昇していることから、広報宣伝や販売営業等において一定の成果が上げられたものと考えている。 「分断と対立」や「相互理解の促進」「共生社会の実現」といった今日の社会課題を、登場人物の子どもたちの目線で分かりやすく訴える物語と、幅広い世代に耳馴染みのある楽曲により、来場者アンケートでは子どもも大人も楽しめた、というコメントが多く寄せられるなど、満足度等は目標を超過達成となったことも踏まえ、概ね想定通りの成果を得たものと考えている。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	(1) 公演満足度	(1) 4 つの公演事業全てで、大人・子どもとも公演満足度の目標を達成する	(1) 4 つの公演事業で、「必須データ」で設定した目標を達成した
	(2) 劇場の公演内容への信頼度 （測定方法：来場者アンケート）	(2) 来場理由を「日生劇場ファミリーフェスティヴァルの内容は信頼できるから」「家族連れで楽しめる公演だから」とする回答が 60%以上	(2) 「日生劇場ファミリーフェスティヴァル」を知っていた回答者のうち、89.2%が「信頼できる」「家族連れで楽しめる」を来場理由として選択しており、目標を達成した
	(3) 舞台芸術の魅力浸透度 （測定方法:①来場者アンケート／②来場者モニター（子ども）調査）	(3)-① 公演の良かった点にで「物語（脚本）」「出演者やお芝居等」「歌や演奏」「ダンス」「舞台美術や衣裳」等、舞台芸術の水準を評価する回答が 80%以上	(3)-① 公演の良かった点で、舞台芸術の水準を評価する項目を 1 つ以上回答した回答者の割合は 98.8%となり、目標を達成した。
		(3)-② 舞台芸術の水準を評価する項目にモニターの 8 割程度から評価を得る	(3)-② 来場者モニター40 名（小学 3 年生、4 年生）のうち、97.5%にあたる 39 名から、「物語」「登場人物」「演技」「ダンス」「音楽」「美術」等の舞台構成要素に興味を持って鑑賞出来たという評価を得た。
	(4) 作品テーマの理解度 （測定方法：来場者モニター（子ども）調査）	(4) 主に演劇系の作品に対して、作品・物語のテーマやメッセージへの理解を示す項目に、モニターの 8 割程度から評価を得る	(4) 演劇系演目＜公-02＞＜公-04＞の来場者モニター20 名（小学 3 年生、4 年生）の全員が、鑑賞して感じたこと（印象に残ったり、考えたりしたこと）として、作品が設定したテーマやメッセージに沿った選択を回答し、設問に対応する自由記述にも、舞

			台上の出来事や登場人物の心情を、自分自身の周囲や社会の出来事、人間関係に置き換えて汲み取り受容していることを示すコメントが多かった。なお、この調査は公演鑑賞から 1 か月ほど経過した時点で実施していることから、作品の内包するテーマやメッセージへの理解浸透・定着が図れたものとして、目標を達成したと分析している。
人材養成事業			
普及啓発事業	(1) 満足度 （測定方法：参加者アンケート）	(1) 4 つの普及啓発事業全てで、アンケート上位 5 段階（または 4 段階）のうち、上位 2 段階（「とても満足」「満足」）が 80%以上	(1) ＜普-01＞が 95.3%、＜普-02＞が 92.0%、＜普-03＞が 86.2%、＜普-04＞が 96.3%となり、4 つの普及啓発事業全てで目標とした 80%以上を達成した。
	(2) 子どもたちへの効果 （測定方法：参加者アンケート）	(2) ＜普-01＞＜普-02＞参加児童の 80%以上が、「また参加したい（公演を鑑賞したい）」、引率教員の 80%以上が「芸術鑑賞教室としてとても良かった・良かった」「また申し込みたい」と回答	(2) 参加児童の 94.5%、引率教員等の 95.6%の評価を得て、目標を達成した。
	(3) 関係者（受入先等）による評価 （測定方法：担当者ヒアリング）	(3) ＜普-01＞＜普-02＞共同主催等の現地側パートナー担当者から、事業内容について概ね高評価を受け、「また実施したい」と回答を得る	(3) いずれの開催地でも、現地側パートナーの担当者からは概ね高評価。＜普-01＞では 4 都市中 1 都市が継続的な開催地、3 都市が新規開催地であったが、26 年も 3 都市で継続開催を行う。＜普-02＞は比較的新しい取り組みではあるが、助成対象となった 5 地域のうち、26 年度も公演を実施する（ワークショップの対象となる）3 地域で、全て継続して実施する。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

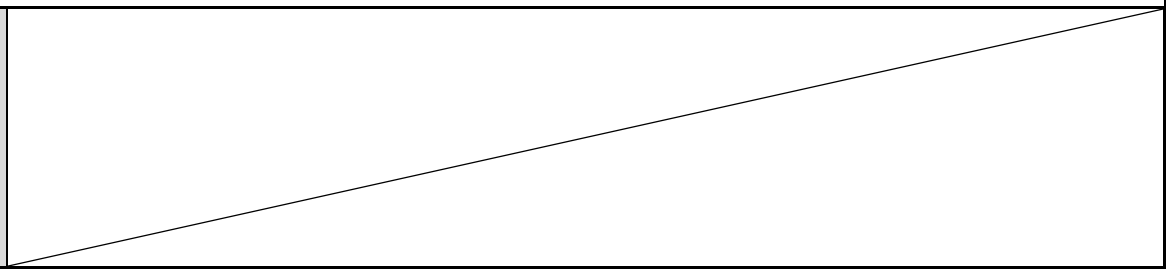
・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	ファミリーフェスティヴァルという事業の性質上、＜創造性・企画性＞に関しては主ターゲットとなる子どもの観客からの評価を測定できるような評価指標を設定した。来場者アンケートによる測定項目では、設定した全ての評価指標において目標を達成することが出来た。特に「日生劇場ファミリーフェスティヴァル」を知っていた来場者（保護者）のうち約 9 割から、来場理由を日生劇場（のファミリー向け事業へ）の信頼感や、家族連れで楽しめると思ったため、という回答があったことは、長年継続してきた当劇場のファミリー向け事業が認知され、信頼を得ていることの証左と考えている。 また、各作品で 10 名程度、小学校 3 年生・4 年生の来場者をモニターとして選定、公演鑑賞から 1 か月後に選択・記述式のモニター調査を行ったところ、公演当日の良かった点について、「物語」「登場人物」「演技」「ダンス」「音楽」「（舞台）美術」といった、作品を構成する要素に対して 97.5%のモニターから評価を得たことに加え、演劇系の 2 作品では、それぞれの作品が内包していたテーマやメッセージを自分の日常に置き換えて理解していると思しき記述（具定例後述）が多く見られたことから、作品制作上所期していた舞台表現の魅力やテーマを、ターゲットに届け、定着させることが出来たと分析している。 子どもの観客は時として大人よりも厳しい目線で、作品の良し悪しや本質を見抜く力をもっていると考え、当劇場は公演制作にあたり舞台芸術の一線で活躍するスタッフ・キャストを起用、一般向けの大型商業公演と比べても遜色ない体制で、十分な稽古期間を確保している。制作に関わる外部スタッフともこの意識を共有し、丁寧に作品制作に向き合ってきたことがこのような結果につながっているものと考え、今後も継続していきたい。 （モニター調査・記述具体例） ＜公-03＞「（子どもが大きくなったことでいままでのように遊んでもらえなくなるのでは、という不安から家出をした主人公のねこのぬいぐるみに他の登場人物が声をかけるシーンで）そんな不安をもってるやつもいっぱいいるよ！の言葉が心に残っていて、不安を受け入れることも大事なんだと思った」（小 4）／（）内は当劇場による補記 「自分は友達がうらやましいと思っても、実は友達は自分のことがうらやましいと思っているかもしれないことがわかった。自分はこのままでいいとおもった。」（小 3） ＜公-04＞「最近、学校に外国出身の同級生が引越してきて、ノノとショウのように言葉も通じない知らない相手とも仲良くなりたいと思った。」（小 4） 「自分の個性を大事にすること、人の個性を受け入れ、互いを認め合うこと（が大切だと気付いた）」（小 3）／（）内は当劇場による補記

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	参加者アンケートによる測定項目においては、全ての評価指標で目標を達成した。同じアンケートによる自由記述では、＜普-01＞においては「公演事業」と同様に、作品のテーマやメッセージを自分の身の回りの出来事や関係に置き換えて言及するコメントや、ぬいぐるみやネコなど、人間以外の登場人物も生身の人間が演技・操演していることに対する驚きといった、舞台芸術ならではの表現に対するポジティブなコメントも多く、子どもたちが楽しみながら作品を受容した様子が見て取れる。また、引率教員へのアンケートの記述欄でも、タブレット等で、家庭や教室にいながら気軽に様々なコンテンツを享受できる時代において劇場で演劇を鑑賞する機会の貴重さや、鑑賞後にクラスで感想を言い合うといった普段にはない行動を評価するコメントが多く見受けられた。 ＜普-01＞＜普-02＞は、現地側の様々なパートナーと協働して実施している。開催地によって直接のパートナーが劇場（公共施設）であったり自治体（教育委員会）であったりと区々ではあるが、現地側パー

	トナーにとって、前者の場合は参加校・児童の募集といった業務、後者の場合は公演を行う劇場・ホールとの調整といった日常的に行っていない業務による負荷が大きく発生する。そのような中、今回実施の現地側パートナーからは事業内容について概ね高評価をいただき、多くの地域で継続的な開催の希望が寄せられており、＜普-01＞は R7 年度開催 4 都市のうち 3 都市、＜普-02＞は R7 年度開催 5 都市のうち 3 都市で、R8 年度も開催が予定されている。また不開催となる都市は、指定管理等の切り替えによる事情や、もともと人口（児童数）の関係で隔年等での開催を行っている地域であり、いずれの開催地においても、事業の意義と効果には高い評価をいただいている。例年、2 年程度の準備期間を経て事業を実施しているため、今後も現地側パートナーと細かなコミュニケーションを重ねながら、地域ごとにより低負荷で効果的な事業のありかたを模索していきたい。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	下表に記載します
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
(1) （子ども対象事業の）子ども券購入率	(1) 全ての公演事業で、チケット購入枚数に占める子ども券の購入率で目標を上回る	(1) 全ての公演事業で目標に若干の未達だった。目標値は公演ジャンルごとに過去実績を考慮し、少し高めに設定したが、40%と設定していた 2 演目では［37.1%、39%］、45%と設定していた 2 演目では［44.7%、40.8%］となった。
(2) 教育関係機関の協力を得て公演チラシを配布する幼稚園・小学校数	(2) 幼稚園：2.400 園、小学校：2,700 校	(2) 最終的な配布実績は［幼稚園：2,418 園］［小学校：2,701 校］となり、目標を達成した。
(3) 公演鑑賞を契機とした子どもの行動変容 （測定方法：来場者モニター（子ども）調査）	(3) 公演鑑賞をきっかけに、興味関心分野の拡大、学習・習い事等への積極性向上、他者や物事への関わり方への多様性獲得など、ポジティブな行動等の変容が見られたという項目に、5 割程度のモニターから評価を得る	(3) 来場者モニター40 名（小学 3 年生、4 年生）の保護者のうち、6 割弱にあたる 23 名から、公演鑑賞後に「興味関心分野の拡大」「学習・習い事等への積極性向上」「多様性・社会性獲得」等の面で何らかのポジティブな変容が見られたという回答を得た。この調査は公演鑑賞から 1 か月ほど経過した時点で実施していることから、これらの変化は一定程度継続的なものと考えられるため、目標を達成したと分析している。
(4) 文化芸術による学校教育への貢献 （測定方法：参加者アンケート）	(4) ＜普-01＞＜普-02＞において、参加した学校教員の 8 割程度から、児童の学びへの貢献に高い評価を得る	(4) 児童を引率した教員等の 9 割強から評価を受け、目標を達成した。
(5) 地域におけるオペラ文化の振興拠点機能	(5) ＜普-03＞＜普-04＞において、参加者の 60%以上から、事業内容が	(5) 5 段階評価で実施した来場者アンケートにおいて、上位 2 段階の回

（測定方法：参加者アンケート）	長年オペラの振興に努める日生劇場らしい充実した内容であったという評価を得る	答率が 85.9%となり、目標を達成した。
(6) 貸劇場利用者（興行団体）の満足度 （測定方法：利用者へのヒアリング）	(6) 貸劇場利用者（興行団体）から、劇場の利用に関して概ね高い評価を得る	(6) 2025 年度に貸劇場で利用した 3 団体からは、劇場利用に対して概ね高い評価を得た。どこからでも舞台が見やすい客席、建築的な趣き、案内係のホスピタリティ等が来場者の満足度を高めていると評価いただいた。

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	助成対象事業のうち、主に公演事業を実施した日生劇場においては、多くの民間劇場等が集積するエンタメ・舞台芸術の集積地に所在することから特に子ども向けの舞台芸術発信拠点としての機能に注目して設定した(1)～(3)の評価指標・目標のうち、(1)の子ども券購入率が目標にわずかに届かなかった。過去の同ジャンルの演目における実績を参考に、その平均値以上になるよう目標を設定したものの、演目や出演者・団体等によって同一ジャンルにおいても毎年 5 ポイント程度は上下にぶれていることから、今回も「子どもに多く来場してもらう」という目標から大きく逸脱するほどの結果になったとまでは言えず、概ね期待した成果を得ることが出来たと考えている。また、舞台芸術をつうじて「子どもたちの豊かな情操を育む」という当劇場のミッションに関連して来場者モニターの保護者に行った調査では、6 割弱から公演鑑賞を契機に子どもにポジティブな行動変容が見られた、という回答を得ることが出来た。これらの中には興味関心分野の拡大や学習・習い事等への積極性向上といった直接的効果加え、公共マナーや社会性の獲得（向上）、他者や物事への関わり方への多様性の獲得（向上）といった間接的効果も含まれることから、舞台芸術が子どもたちに与える効果について改めて実感しており、今後も子どもたちに優れた舞台芸術を届ける拠点としての機能を強化していきたいと考えている。 また、日生劇場に来場することの出来ない遠方に事業を届ける＜普-01＞＜普-02＞においても、引率教員の 9 割強から、事業への参加が児童の学びに効果があったとの回答を得た。特に地域間格差の観点から、東京等の大都市に比べて鑑賞機会が少ない地域からは、作品そのものがもたらす効果に加え、「劇場で観劇する」という体験機会や公共マナーの向上といった点まで含めて評価するコメントも多く寄せられた。また、＜普-01＞を含む芸術鑑賞教室の全国公演事業及び＜普-02＞を含むワークショップ事業全体では、各地の地元紙（7 紙）及び地元局（3 局）で事業の内容や参加した児童の声が報道されるなど注目を集めたこともあり、当劇場事業を契機に、各地の劇場の地域文化拠点としての機能強化が図られている状況を見て取ることが出来た。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
(1) 来場しやすい公演事業 （測定方法：アンケート調査）	(1)-① 低廉なチケット料金や子ども料金の設定等の施策に対して、チケット料金に対するアンケート 5 段階評価のうち、上位 3 段階（「安い」「やや安い」「ちょうどよい」）の評価が 80%以上	(1)-① 回答者のうち、目標とした上位 3 段階の回答合計は 83.9%で、目標を達成した。回答割合では多かった順にから 1 位が「ちょうどよい」で全体回答の 6 割弱、次いで 2 割弱の「安い」、1 割強の「やや高い」と続いた。
	(1)-② 「3 歳から入場できる」施策に対して、来場しやすくなるという評価が 80%以上	(1)-② お子さま連れで来場した回答者のうち、「来場しやすくなる」「どちらかといえば来場しやすくなる」と評価した回答者の割合は 77.3%で、目標を若干下回った。
(2) 経済状況に関わらない鑑賞機会の提供	(2) 鑑賞教室事業において、60,000 名の児童に、家庭環境や経済状況に関わらない公演鑑賞機会の提供を行う（うち、助成対象事業では 14,000 名）	(2) R7 年度の鑑賞教室事業全体では［61,602 名］に鑑賞機会を提供し、目標を超過達成した。なお、助成対象事業においては［12,605 名］で、個別目標は未達となった。
(3) 障がい者向け情報保障施策の実施事業数	(3)-① 視覚障がい者向け：5 事業 日生劇場にて主催するすべての一般有料向け公演事業で音声読み上げプログラムの用意（地方を含む鑑賞教室公演事業（全 4 事業）においては、要望ベースで同様の対応を行う）	(3)-① 視覚障がい者向け：4 事業 本助成の対象外の 1 事業で、公演準備期間の業務多忙により用意することが出来なかった。今後は業務分担の見直しやダブルチェック体制の構築等の対応を行うこととする。
	(3)-② 聴覚障がい者向け：6 事業 上演に言語を用いる主催公演のうち、字幕設置を行わない全ての公演事業で、字幕タブレットまた	(3)-② 聴覚障がい者向け：6 事業 全ての対象公演事業で、貸し出し用の字幕タブレットを用意、全体で 3 件の利用があった。

	は台本の貸し出しを実施	
(4) 特別支援学級の受入れ	(4) 地方での鑑賞教室事業において、各都市 1 学級（公演回数の多い大都市では、2 回あたり 1 学級)、全体で 16 学級以上の受入を実施する（うち、助成対象事業では 7 学級)。 ※但し、要望があれば施設側と調整の上、学級数に限りなく可能な範囲で受入れを実施	(4) 特別支援学級の来場級数は 221 学級となり、目標を大幅に超過した。
(5) アウトリーチの実施数	(5) 日生劇場が公演を行う地域において、10 校以上の小学校で実施（うち、助成対象事業では 5 校以上)	(5)公演を行った 8 地域のうち、7 地域で小学校 12 校、1 地域では公演会場となった公立文化施設にて実施した（うち、助成対象事業では 4 地域の小学校 7 校と、1 地域の公立文化施設で実施)
(6) 障がい者等の応対に関する OJT の実施	(6) 日生劇場において来場者応対を行う案内職員・アルバイト全員に対し、車椅子利用者や歩行補助杖利用者、視覚障がい者、聴覚障がい者、介助犬同伴者等への応対に関する研修を OJT により実施する	(6) 予定通り OJT を実施した。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	本評価項目においては、主にアクセシビリティの観点から評価指標・目標を設定した。そのうち公演事業固有の取り組みとしては、「来場しやすい公演事業」として、来場者アンケートにより廉価な入場料金の設定と入場可能年齢を 3 歳以上とする施策に対する評価を測定した。前者は目標を達成、後者は目標を 2.7 ポイント下回った。但し後者は「どちらでもない」と回答した 21.4%の来場者の大半が小学校中学年以上の子どものみを同伴していたことから、実際に低年齢児を同伴した来場者に限ればほぼすべての回答者が評価しており、本施策は十分な機能を果たしていると考えている。 また、普及啓発事業では、小学生を対象とした芸術鑑賞教室公演で、日生劇場と全国で合計 67 回の公演を実施、目標とした 60,000 名に対して、61,602 名に鑑賞機会を提供することが出来た。なお、このうち本助成の対象となった 14 公演では目標に 1,395 名未達となったが、これは開催 4 都市中の 3 都市を占めた新規開催地における鑑賞児童募集が想定を下回ったことが主因であり、今後、特に開催歴の浅い地域における事業浸透度の向上に向けて、現地側パートナーとの協力体制の強化を行っていく。 また、同事業においては従来から特別支援学級に通級する児童へも広く鑑賞機会を提供するため、特別支援学級の受け入れに関して全国公演で鑑賞児童募集を担う現地側パートナーから照会があった場合は、学級数等の制限を設けず対応可能と回答してきた。今回の指標化に伴い初めて来場実態を調査したところ、目標値を大幅に上回る 221 学級であったことから、次回以降は指標設定にあたり今回の実績も踏まえて検討するが、当劇場事業が各地において舞台芸術へのアクセシビリティ向上に寄与していることが実態としても明確になった。 なお、プログラムの多様さという観点では、当劇場のファミリー向け公演事業において、特に子どもたちに多様な舞台芸術に触れる機会を提供するという趣旨と、特定ジャンルに偏らないことで様々な関心分野を持つ幅広い子どもたちに訴求するため、毎年、様々なジャンルの公演を実施しており、R7 年度はバレエ（舞踊)、クラシックコンサート、ミュージカルに加え、人形劇とダンス表現を融合させた舞台作品の 4 ジャンルを制作・上演した。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

＜公演事業＞

R7 年度は来場者モニターとして、公演を鑑賞した小学校 3 年生・4 年生の子どもとその保護者を対象に、公演の 1 か月後を目途に、鑑賞経験がもたらした変化等を中心にした記述式の調査を行った。当劇場では舞台芸術を通じて児童・青少年の豊かな情操や多様な価値観を育むというミッションに即して、子どもたちに本格的な舞台芸術に触れる機会を提供しているものの、主な効果測定方法は来場者アンケートによる満足度等の捕捉であり、今回が公演鑑賞から一定期間経過後の子どもへの効果を図る初の機会となった。

舞台芸術の魅力浸透や作品テーマの理解度、鑑賞経験がもたらした子どもの行動変容等、指標化した内容の結果は前項までにまとめてあるが、調査結果からはそれら以外にも子どもたちに様々な効果があった様子を見ることが出来るため、保護者の回答の一例をあげる。

・公演を観てから、ずっと公演の話をしています。親もよくそんな細かい事を覚えているなと驚くほどです。動画などで演奏された曲が出てくると、あの時の曲と教えてくれます（小 3 保護者）
・普段は長時間落ち着いて座っていることができないが楽しく最後まで鑑賞、プロの演技と自分の演技の違いについて楽しそうに話していたことが印象的でした（小 3 保護者）
・特に印象に残ったのは、一度しか観ていない舞台の歌を、家でも歌っていたことです（小 3 保護者）
・衣装の仕上がりがとてもきれいだったこと、歌が直接体に響いてきたことに感動していました（小 4 保護者）
・ストーリーを知らなかったが、それでも理解でき、楽しめたことが、自信になったように感じた（小 3 保護者）

＜普及啓発事業＞

全国で実施している鑑賞教室公演の来場予定校を対象に、舞台を鑑賞する前に公演の出演者等と交流し、作品に関連したダンスや身体表現に楽しく触れることで、舞台表現を自分たちの体験の延長線上にある身近なものとして捉えてもらう取り組みとして、出演者等を講師にしたアウトリーチ型のワークショップを行った（巡回公演を行う 2 演目で 8 都市、29 回のダンスワークショップに 914 名［うち、助成対象は 5 都市 16 回、466 名］の児童が参加）。

ワークショップから公演まで、数か月の期間が空いた地域も多かったが、公演ではワークショップ参加校の児童が率先して客席で手振りなどの踊りをしたり、カーテンコールで講師（を務めた出演者）に向かって歓声を上げるなど、ワークショップに参加した経験が観劇体験を深化させている様子が見て取れ、実際に引率教員からもそのような意見を聴取することが出来た。

また、ワークショップ事業自体も、ダンスの得意・不得意に関わらず楽しめるよう、テクニックの向上等を目的とはせず、感じたことを身体の動きで表現したり、遊びの中で身体性に気付けるようなワークを中心としたプログラムを作ったことで、参加児童から「ダンスの授業は苦手だったけれど、ワークショップで自由に動いていいんだということが分かったので楽しかった」という手紙をもらったり、車椅子の児童が参加した学校の教員から「車椅子の児童が参加できるダンスや身体表現に本人も楽しそうで、最後の集合写真にとても満足した笑顔で写っているのを見て感動した」と感謝の言葉をいただくなど、子どもたちが舞台や芸術表現をつうじて多様な価値観に触れ、創造性を育むという、当劇場が掲げる事業ビジョンに見合った成果を得ることが出来た。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	事業収入のほか、公的・民間助成金に加え、企業からの寄付金獲得に努めている	新聞広告、交通広告に加え、劇場 HP,SNS 等を活用し、公演告知、集客に努めている
目標(値)（※2）	例年並みの水準の確保	目標値チケット販売率 75%
実績(値)	日本生命保険相互会社を含めて、合計 10 社より寄付金を獲得。	実績値チケット販売率　78.3%
団体の自己評価	計画通りの寄付金を獲得したことで財務の安定性を確保することが出来た。	R7 年度の主催有料公演事業（日生劇場公演）におけるチケット販売率は、2 演目でチケットが完売するなど、目標を超過達成した。特に助成対象事業＜公-02＞では演目単独の公式 Instagram を積極的に運用、稽古の様子などを含めて様々な動画を投稿した結果、最も閲覧回数が多い投稿で 31 万回に達するなど、通常ではリーチし得ない層にも幅広く情報を拡散することが出来た。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	他劇場との協力により「名作シリーズ」地方公演の上演、ワークショップを展開している	設立者の日本生命の関連部署と適宜情報連携を図り、継続的に寄付金、人材を受け入れている。
目標(値)（※2）	地方都市 10 都市以上で継続的に展開	
実績(値)	R7 年度は 11 都市で実施した（R8 年度は 13 都市で実施予定)。	半期毎に財団の事業活動、収支状況を報告したほか、関連部署と適宜情報を共有。
団体の自己評価	R8 年度に実施予定の 13 都市のうち､6 都市が前年度からの継続となる地域､5 都市が隔年等の開催で過去に実績のある地域､2 都市が新規の地域であり､事業の継続発展のため､バランスを取りながら事業運営を行っている。	設立者の関連部署と適宜情報を共有し、円滑な財団運営を推進出来た。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち､劇場運営を統括する､経営実務者が配置されている。
現状（※1）	主催公演の芸術面を統括する芸術参与を配置している	財団運営を統括する経営実務者として専務理事事務局長を、劇場管理運営を統括する実務者として劇場部長、技術部長を配置している
目標(値)（※2）		
実績(値)	R7 年度に実施した公演のプランニング段階から関与し､作品の芸術性と､当劇場主催事業としての作品の方向性の担保を行った。	財団運営全体を鳥瞰する専務理事事務局長及び劇場運営を統括する部長について設立者より出向者を迎えている。
団体の自己評価	主催事業では、ファミリー向け公演であっても一般公演で活躍する一線級のキャストやスタッフを起用したり、あるいはオペラにも若手の実演家やスタッフや異ジャンルで活躍するスタッフ等を積極的に起用するなど、プロダクションごとに特色あるカンパニーを作り制作にあたっている。 このため、各プロダクションに対して芸術参与がアドバイザーとして参画･助言を行うことで､日生劇場作品としての方向性から外れないように努めている。	引き続き、重要ポストについて設立者より出向者を迎え、長期的かつ安定した経営体制を維持していく。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	専門の能力やスキルが必要な部署の人材育成としては、OJT に加え、再雇用制度を活用した事業運営のノウハウの継承、マニュアルの策定、外部セミナー等への参加を促し、個々の職員の能力向上を図っている。	定款並びに組織規定、職務権限規定を策定し、職制、職務権限等を定めている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	OJT に加え、外部より専門の講師を迎えた研修を実施。	目標管理制度を導入し、各職員が上長と面談し、目標（職責）を明確化し業務に取り組んでいる。
団体の自己評価	継続して専門人材の確保及び育成に取り組んでいる。	目標管理制度が職員に浸透し、運営体制が進展している。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	定期採用は実施していないが、即戦力となる中途採用を行う一方、職員の年齢構成の最適化の観点から新卒者採用も考慮している。	管理職（課長以上）の女性職員の割合は 30%を占め、女性の管理職の登用に努めている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	各所属に必要な人材として 5 名を採用	管理職の職員 10 名の内、3 名が女性職員（30%）
団体の自己評価	業務遂行に必要な人材を適切に確保することができた。	女性管理職比率 30%の水準を確保することができた。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児・介護休業法の改正に順次対応している。	「情報資産保護に関する基本方針」等を定め、個人情報取扱ルールを策定、職員に向けたコンプライアンス研修を毎年実施している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	R 7 年度は該当者なし。	6 月に人権研修、10 月にコンプライアンス研修を実施した。
団体の自己評価	引き続き育児・介護休業法に基づいて適切に対応する	今後も定期的にコンプライアンス研修を実施する。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	職員対象の「ハラスメント防止規定」、創作現場におけるハラスメント防止に向けて「主催事業におけるハラスメント防止ガイドライン」設定し、必要な研修を行っている。	フリーランス新法を受けてスタッフ、キャストへの条件通知書の交付、契約書の締結を徹底している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	職場内では 10 月に「ハラスメント防止研修」を実施、職員の知識のアップデートを行った。 創作現場では専門家監修のもと 2024 年に「日生劇場 主催事業におけるハラスメント防止ガイドライン」を策定、R7 年度も出演者・スタッフ等のカンパニーメンバーへの周知に加え、公演にかかり契約を締結する個人･団体等には、契約条文上も同ガイドラインの遵守を求める対応を行った。 自主制作公演においてはハラスメント等防止のため、専門家を講師に招いたカンパニーメンバーに対する研修を、原則として全員参加で行ったほか、外部団体による制作作品でも、制作団体には同様の対応を要求した。 また、主催公演事業においてはハラスメントの通報･相談窓口を設置･運用するなど、全ての公演関係者が安心して制作に携われる環境を整えた。	R7 年度もこれまで同様、全ての主催事業において、契約書締結が必要となる全ての相手先とは、事業がはじまる前の適切な時期に契約書を締結しており、また契約内容に変更等が生じた場合は、契約当事者による協議･合意形成を経て、速やかに契約の改訂や覚書の締結を行った。 また、個人事業主に対しては発注等の適切なタイミングで双方が合意した内容を踏まえた条件通知書を交付、発注内容等に変更が生じた場合は適宜、再通知を行うなど、フリーランス新法へも対応している。
団体の自己評価	この数年で、当劇場でも創作現場におけるハラスメント等防止のため必要な体制を整え、運用をはじめている。今後は時流にあわせて適宜、ガイドラインを見直すとともに、これまでの運用実態を踏まえ、より良い創作環境の整備のため、必要な追加措置を検討していきたいと考えている。	特に近年始まった個人事業主への条件通知書の交付については、作品の形態や時期によって件数が膨大になることから、交付先リストを総務セクションと共有、ダブルチェックを行うなど、制作担当者による交付漏れを防ぎ、適切な運用を行う体制を整備している。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
当劇場では、①届ける（質の高い作品を企画・制作し、より多くの人に届ける）、②育む（舞台芸術等の鑑賞や体験機会を通じ、児童・青少年の豊かな情操を育む）、③支える（次代の舞台芸術を支える俳優、歌手、演出家、舞台技術者等を育成する）という三つのミッションを掲げ、その実現に向けた骨格となるビジョンにそって、R7 年度の主催事業を実施した。 R7 年度については各ビジョンに基づいた主催事業を計画通り実施し、その全てにおいて設定した目標を概ね達成、所期した成果をあげることが出来たと自己評価している。なお、ここまでの評価項目にて自己評価等に記載した内容と一部重複するが、助成対象事業の成果についてビジョンとの関連を踏まえ、以下に詳述する。 ＜公演事業＞ ファミリーフェスティヴァルでは、ニーズや価値観が多様化するなかで幅広い層に訴求できるよう、「クラシックコンサート」「バレエ」「ミュージカル」「ダンス／人形劇」と幅広いジャンルの公演をラインアップした。また、質の高い作品を届けるため、各演目には当該分野の一線で活躍するスタッフや出演者を起用したので、一例を下記する。 ＜公-01＞ 指揮：阿部加奈子　演出：眞鍋卓嗣　出演：又吉秀樹、宮地江奈 ＜公-02＞ 脚本・演出・振付：山田うん　出演：Co.山田うん、人形劇団ひとみ座 ＜公-03＞ 出演：東京シティ・バレエ団　指揮：井田勝大　演奏：東京シティ・フィル ＜公-04＞ 演出：鈴木ひがし　音楽監督：八幡茂　出演：熊谷彩春、南野巴那 4 演目合計の入場者率は目標を 3.3 ポイント下回る 76.7%となったが、来場者の満足度はいずれも目標を大幅に超過達成しており、質の高い本格的な舞台作品を届けることが出来たと考えている。また＜公-04＞においては、舞台芸術の持続的な発展に寄与するため、公立文化施設より 2 名の若手職員、音楽大学より 1 名の学生を制作（稽古）現場にインターンとして受け入れた。 ＜普及啓発事業＞ 小学生を対象にした芸術鑑賞教室公演事業＜普-01＞・ワークショップ＜普-02＞、オペラの普及振興を目的としたミニコンサートやレクチャー等の取り組み＜普-03＞＜普-04＞と多様なプログラムを展開、参加者の満足度はいずれも目標を大幅に超過達成した。 特に日生劇場において有料公演として上演した作品で各地を巡回する全国公演においては、30,722 名（＜普-01＞12,605 名）が公演を鑑賞、家庭環境や地域間格差等によって鑑賞機会が限られる中で、質の高い本格的な舞台作品を届けることが出来た。また、ワークショップも R6 年度の 3 都市から 8 都市（うち＜普-02＞は 5 都市）に拡大、R8 年度は 11 都市になる予定で、鑑賞教室公演への参加を契機に、より多くの児童に鑑賞経験の深化や創造性を育む機会を提供することが出来た。

備考